

35 クレイロカワザンショウ (カワザンショウガイ科)

兵庫県ランク:C

*Angustassiminea castanea*

環境省ランク:NT

種の概要

東北から九州、種子島にかけて分布し、内湾奥部や河口、海水の影響のある池沼などのヨシ帯や漂着物の下などに生息する。ただし、潮間帯がほとんど形成されない日本海側では生息が知られていない。生息潮位は比較的高く、フトヘナタリやダテ(ヒラド)カワザンショウ(貝類Bランク)などとともに見られ、砂礫のみの場所には少ない。殻長4~6.5mmの塔形で、螺管は膨れず外観は直線的である。縫合直下には1本の細い螺条溝がある。殻表面は光沢のある栗色ないし赤褐色であるが、殻頂部の大半と、各螺層の表面はハケ斑状に侵食されて白くなっている。軟体は黒色である。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	△			○

県内分布

加古川市、高砂市、姫路市、相生市、たつの市、赤穂市、洲本市、南あわじ市

県内における生息状況及びその他特記事項

ランク変更なし。瀬戸内海沿岸や淡路島中部、南部の河口干潟に分布する。海浜部の塩水池に生息する個体は、殻サイズがやや大型化するクロクレイロカワザンショウという型になる。

保護上の留意点

河口等の干潟においてヨシや塩生植物が生え、その底床は小礫混じりの砂泥で、かつヨシの枯れ茎などの植物残骸などがある程度堆積している環境が必要となるので、埋め立てや浚渫、強度な護岸工事による消失を避ける。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修